

釣船寺たより

発行所 釣船寺
〒300-0641
茨城県稲敷市
浮島3583-1
029-840-7778

一期一会

今日の出会いはまだ一度限り

この言葉は、皆さんがご存じの通り、簡単に言うところ人と人との出会いは二度とないかもしれないから大切にしましょう」という意味です。

この三月は、まさにそうしたことを強く感じましたね。なぜなら、卒業、進級、就職、年度初めなど、四月をめどに新たな旅立ちをする人が多いからです。

人は一生涯のうちに、何人の人と出会うことができるのでしょうか。今日言葉を交わした人と、今度はいつ会えることができるのでしょうか。そう考えたら、一人ひとりと誠心誠意で接したいと思いませんか？真心をもって人と接すれば、一期一会の精神は、皆さん自身にも返ってきて、よりゆたかな時間を持てるようになるはずですよ。

お釈迦様お誕生の日

四月八日 降誕会

お釈迦様は、今から約二五〇〇年前の四月八日に、インドの北、現在のネパールにあるルンピニの花園でお生まれになりました。お釈迦様の誕生日のお祝いを、「花まつり」といっつのはこのためです。

この日は、美しい花が咲き乱れる花園に見立てた花御堂に誕生仏をおまつりし、甘茶をかけてお祝いします。甘茶をかけるのは、産湯の代わりに、天が甘い雨(甘露)を降らせて誕生をお祝ったという言い伝えによります。

この「花まつり」とは、なんと優しく希望に満ちた響きを持った言葉でしょう。寒い冬が去って、暖かい太陽の日差しに草木も美しい花を咲かせ、人も自然も生き生きと活動する春の訪れ。お釈迦さまがこの世にお生まれになったことが、私たちの生活に一筋の希望をもたらし、明るい春の日差しのように感じます。

祖師豆知識

道元 曹洞宗の開祖
一一〇〇―一二五三年
内大臣久我家に生まれ、比叡山に出家、中国天童寺留学より帰国して永平寺を開き禅を広めた。著作「正法眼蔵」など。

法然 浄土宗の開祖
一一三三―一二一二年
岡山生まれ、比叡山を降りて四三歳の時浄土門を開き、専修念仏を説いた。著作「選択本願念仏集」など

栄西 臨済宗の開祖
一一四一―一二二五年
二度入宗して臨済禅を会得、博多に聖福寺、京都に建仁寺を建てて禅宗の定着に寄与した。著作「興禅護国論」など

親鸞 浄土真宗の開祖
一一七三―一二六二年
法然の弟子で愚と自称し、非僧非俗を貫き日本僧が妻帯するきつかけを作った。著作「教行信証」など

日蓮 日蓮宗の開祖
一一三二―一二八二年
千葉の人で、仏法の真髄を法華経に見出して立宗、配流されてもひるまず、のちに身延山を開いた。著作「観心本尊抄」など

四月四日午前十時より

降誕会(花まつり)のお経を本堂にてお唱えします。スリランカ寺院の蘭華寺僧侶により、**紅茶をふるまつり**も。

四月二日、四月八日迄

釣船寺本堂正面に、例年通り花御堂を安置します。ご先祖様への思い、わが子の無事育成の願いなど、皆様それぞれの思いを込めてお像の頭上より甘茶をかけて沐浴の故事にならいます。

期間中、参拝された方先着100名様に、甘茶をお配りいたします。



海中山 釣船寺の歴史

曹洞宗 本尊 延命地藏菩薩

慶長十九年(一六一四年)九月二十日、木原永蔵寺十七世安芝門泰大和尚が開山。今から三九一年前になり、木原永蔵寺の末寺となりました。

承応年中および寛文年中には寺より出火。本尊、過去帳ともに、堂や塔残らず焼失しました。このため、六世梅門大和尚は、静岡の秋葉総本殿 可睡齋から分霊を迎え、火防 火の用心霊験あらたかな三尺坊大権現様を秋葉神社に祀ったと云われています。

今から三五七年前と三四八年前に相次いで火災に遭遇しています。二度目の火災は、最初の火災による再建造作中に大工の不始末から再び焼失したと云われています。

現在の本堂は、文政九年(一八二六年)三月に再建されたもので、今から一八三年前になります。また、昭和二十一年には、本堂庫裡は本堂より古い建築でした。永らく納屋同様であったものをついに取り壊して、昭和三十四年(一九五九年)今から五十年前に新築したものでしたが、秀孝和尚の代で取り壊されています。

天明五年(一七八五年)の文書によると、もともと釣船寺に所属していた、秋葉様は、明治末期の神仏分離の命令により、神職が秋葉三尺防様(観世音菩薩様の化身)の分霊(火伏せの仏様)を社務が司ることとなりましたが、現在も、お社(やしろ)を取り囲む土地は、釣船寺の敷地になっています。

字 中郷 地藏堂廟所とは、現在の中央公民館の旧郵便局寄り敷地の墓地で、字 石橋観音堂廟所とは、現 浮島農協建物の場所にあった小堂です。また、字 戸崎館地藏堂は、現 戸崎公民館地で、いずれも釣船寺から遠く離れ、大正時代に浮島村や地域に返しました。現在、西浜の観音堂が釣船寺の管理下にあります。

釣船寺墓地利用者へのお願い

お墓にあげます紙のお花は、強風が吹きますと寺内に散舞してしまい困っているのと、針金が入っているため焼却出来ません。なるべく**生花**がよろしいかと思えます。もし紙の花の場合は、お持ち帰りください。

釣船寺墓地管理者

